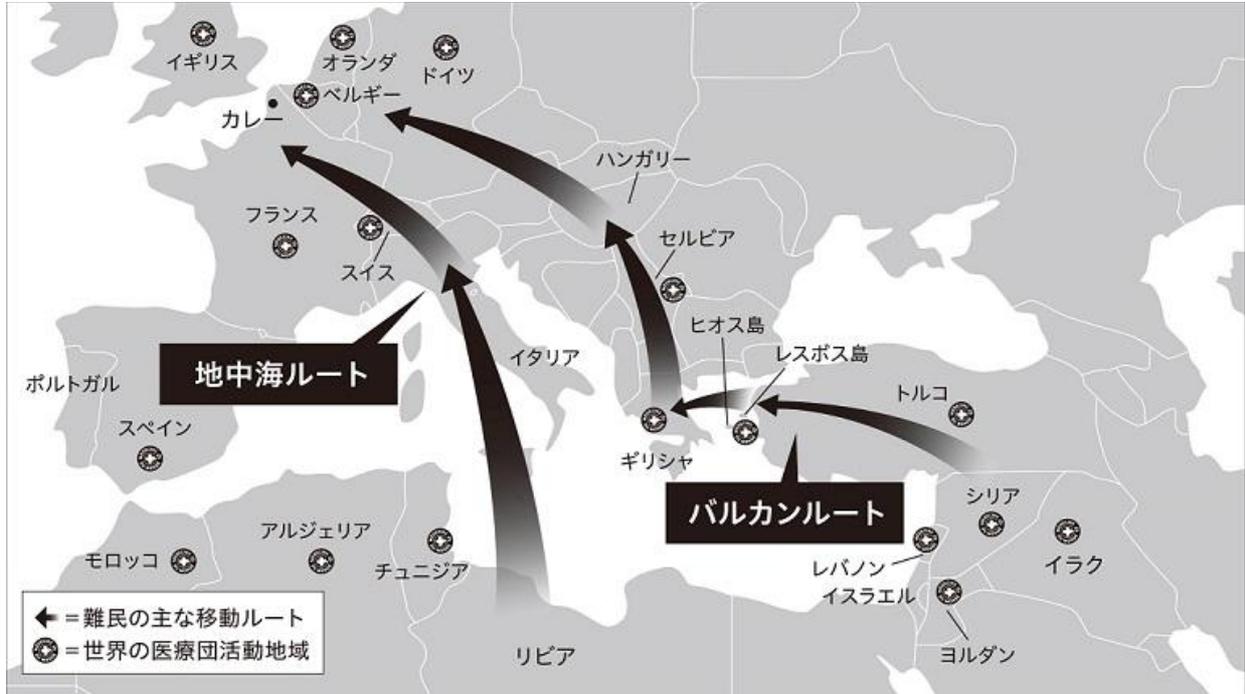


ヨーロッパにおける難民危機 最新レポート(2015年9月25日)



オーストリア

現地の移民保健センターの報告によると、ウィーン的主要駅の一つであるウエストバーンホフ駅のホームに、女性や子どもを含む多くの移民が寝泊まりし、フランクフルトやミュンヘンに向かうドイツ行きの列車を待っている。カリタスなど複数の NGO が支援活動を行っている。

ブルガリア

現地 NGO の BFPA (Bulgarian Family Planning and Sexual Health Association 家族計画と性の健康促進協会) によれば、ブルガリア国内の難民に関する緊急事態は報告されていない。ブルガリア～トルコ間に高さ 4 メートル長さ 160 キロの柵が建てられていることから、難民たちはむしろギリシャやマケドニアを目指しているからである。しかしながら、ブルガリア政府は(他の国を通過出来ない理由で)ブルガリアに流入する難民を見越し、トルコ国境沿いの 400 ヶ所の収容所でその収容能力を拡大させた。既にブルガリアに入国している移民の国籍は、主にアフガニスタン、イラク、北アフリカ、サハラ以南のアフリカ諸国(主にマリ共和国)などで、シリアだけに限らない。

「政府はブルガリア市民のため(例:年金)ではなく難民収容センターにより多くのお金を使っている」という意見が象徴するように、移民に対する一般市民の反応は冷ややかである。移民に好意的なグループと否定的なグループの間でデモが行われた直後の先週、ソフィアで 200 人の移民が逮捕された。逮捕された人々はバスでセルビアに送られたと伝えられるが、確かな情報ではない。ブルガリアの収容センターでは、医療サービスを受けることも出来る。政府職員(医師、看護師、他)に加え、ブルガリア赤十字の職員も働いている。

BFPA が取り組む活動のひとつに、UNFPA(国連人口基金)や IPPF(国際家族計画連盟)と協働し、難民収容施設向けの医薬品支援物資の中に避妊具を含めるよう政府に働きかける活動がある。

ベルギー

難民申請が受理されると、最低限必要な住まい、食糧、医療等の権利のみが付与される。ただ、ブリュッセルに唯一ある国の機関「外国人事務所」は 1 日に約 250 人の申請しか受け付けられず、残りの申請者はただ待つように指示され、現在では何日も待ち続けることもある。9 月初旬から更に難民の数が増え始め、多数の移民が「外国人事務所」の前のマクシミリアン公園での野宿を強いられている。大変多くのベルギー市民が支援に動き出し、衣料品の配布、子どもたちのための娯楽や教育活動、大人向けの語学教室を開催するなど多様な支援が行われ、今や 1,000 人の難民が生活する一大テント村が形成されるに至った。当局は赤十字社を通して、300 床を近隣のシェルターで提供しているが、明らかに足りていない。



© Frédéric Pauwels / Collectif HUMA

世界の医療団は約 3 週間前から現地で、医師、看護師、臨床心理士、通訳、ボランティアによる診療を 24 時間体制で提供している(24 時間あたりの診察件数約 150~200 件)。この他、トイレ、シャワー、洗面台を備えたコンテナを 5 基設置した。

最近の診察 200 件を対象にした調査の結果、患者の 80%がシリアかイラク出身で平均年齢は 29 歳であることがわかった。大半はベルギーに到着してまだ間もなく(3 日以内)、同国での滞在日数が一ヶ月に及ぶ患者は非常に少なかった。診断内容としては、呼吸器疾患が約 3 分の 1 を占め(うち過半数はより重症の下気道感染症)、また宿泊施設の不足による野宿や寒冷または多湿な気候、足に合わない履物や長距離歩行などに起因する皮膚疾患が多く見られた。8%は複雑外傷や細菌に感染した創傷で、転倒や身体的暴力、長距離歩行による皮膚擦れや肉擦れなどが原因として考えられる。また、受診者の 13%は子どもであり、そのほとんどが 5 歳以下であった。

フランス/ カレー市

およそ 3,500 人が、産業廃棄物に囲まれたジュール・フェリー地区のスラムに居住しており、そのほとんどの者がアフガニスタン、エリトリア、スーダンないしシリアから来た人々である。世界の医療団のチームは、非常に多くの女性や子どもの治療にあたっていて、保護者のいない子どもたちも多く含まれていた。患者のうち 60%以上がフランスに来てまだ 3 週間に満たない者であり、その多くは、過酷な旅(例、ボート)を経験しており、そのトラウマを共有することが必要だった。

フランス当局が提供するシャワーやトイレ、飲料水、食料、ヘルスケア等への設備やアクセス状況は全く持って十分とはいえない。12 のトイレが 2 か所、5 つの給水栓が 3 か所設置されたが、これは 3,500 人収容に対し明らかに不十分である。国際的に広く認められている「人道対応に関する最低基準」(通称スフィア基準)¹では、1 つのトイレの利用者数を最大 20 人までと定義している。そのため、NGO の Solidarités international が 12 の簡易トイレを 2 か所に設置せざるを得ず、その上、当局が清掃員を雇わないため、維持管理もせざるをえない状態である。同 NGO が、ジュール・フェリー・デイセンターの既存のシャワー設備に加え、3 つのシャワーを 3 か所に設置したが、それでも 1 日に 500 回分のシャワーを提供することしかできず、一人、1 週間に 1 度しかシャワーを浴びることができない。

市の衛生管理当局が定期的に処理するごみ容器は 42 ヘクタールの土地に僅か 3 個のみ、これ以外には居住区域(台所、住居、トイレ)にごみ処理場が存在しないため、キャンプで活動する複数の NGO が難民とともにごみ処理キャンペーンを開始した。同上の「スフィア基準」では、少なくとも週に 2 度は処理され、居住区から 100 メートル以内にある集積所に全ての住民がアクセスすることができること、住人が出したごみは、日々居住空間から撤去されることが必要であると、規定されている。

センターの洗濯機の数も非常に限られており、利用する場合は何時間も列に並ばなければならない。飲料水の給水場の数も少ないため、いくつかの NGO が飲料水を配給している。また、センターでの国の助成による配給は毎日 2,500 食のみで、全く十分とは言えない。世界の医療団の医療チームが検診した難民の多くは明らかに栄養不足であり、BMI(肥満度指数)は 18.5 を下回っていた。

公衆衛生、食糧、医薬品は恒常的に不足しており、どれに辿りつくためにも日々長い行列をつくらなければならないため、人々はシャワーか飲料水か食事のいずれかの選択を常に強いられている。

¹ スフィア・プロジェクトが推進する「人道憲章と人道対応に関する最低基準」は、21 世紀の人道支援活動の標準規格として、DG ECHO(人道支援と市民擁護欧州委員会)を含む多くの人道支援組織が採用する活動指標であると同時に、人道危機時の人命救助の側面から国際的に最も普遍的に認められた共通の原則であり、守るべき最低基準とされている。



© Frédéric Pauwels —カレーのジュールス・フェリーセンター:何かしらのサービスを受けるために、平均して 3 時間並ばなければならない

法律上、不法滞在とみなされているキャンプ／スラムの住民がアクセスできる、最も近い医療施設は「カレー医療駐在施設 (Permanence d'Accès aux Soins de Santé)」である。ジュール・フェリー・センターからは徒歩 1 時間の距離にあり、たった 1 名の医師が 1 日 2～3 時間のみ在駐するだけで、ニーズに応える十分なリソースはないのが現状である。また、1 週間以上継続する治療の提供ができないため、特に継続した投薬による治療が必要な精神科などについては、大きな問題となっている。

世界の医療団は今回の移民・難民危機のずっと以前の 2003 年から、カレー市およびダンカルク市 (グラント・シント、テテゲム、タタンエム) で支援活動を行ってきた。しかし、移民たちの健康リスクの高まりに対し、当局が必要な手立てを行わないことを受け、通常、国外での緊急医療支援にしか発動しない緊急チーム (看護師、医師、精神障がい専門家、メディエーター、通訳) を動員しなけりならなかった。

カミソリのようなトゲのある鉄フェンスを越えたり、ユーロトンネルのそばで警察犬に噛みつかれそうになったり、トラックに隠れこんだり、橋の上から電車に飛び乗ったりというような経験から、大人も子どもも多くが怪我を負っている。また、多くの者は警察による容赦のない暴力にもあっている。妊娠中にも関わらず催涙ガスを浴びせられた女性や、催涙ガスをかけられ、トラックから押し出されて、病院へ搬送された男性なども遭遇した。

人々を移送し、適切な受け入れ態勢を提供するよう、UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)² から呼びかけられたが、フランス当局は安全対策を強化しただけであった。カレーで避難民たちが直面している悪化の一途を辿る現在の状況に加え、世界の医療団が非常に憂慮していることは、フランス当局が公衆衛生に逆行する効果のない措置を正当化するため、公衆衛生を悪利用しようとしていることである。実際、ダニを起因とする皮膚病の蔓延を防ぐという名目で、警察はこれまでに何度となく、スラムから住人を強制退去させ、「公衆衛生上の理由のため」として、彼らの住居を破壊してきた (たとえば 2014 年 5 月 28 日、カレー市)。退去に先だって移民の代表や NGO に対して、話し合いの場を持つことや告知がされることはなかった。また、退去後の行き先についても提示

² UNHCR はカレーでの難民受入れ状況に対し、包括的な対応を要請した。

はなく、これは移動先の確保のないままに退去を強制すること特に禁じた 2012 年 8 月 26 日付の省令に反するものである。

事実、住居のない移民やロマに対し、フランス政府は数年前から非常に過酷な対応策を典型化させている。曰く、過酷な生活条件を向上させるための対策は何ら講じず、これに起因する健康上の問題に対しても適切な対応を行わないどころか、移民らの不健康を理由にキャンプから強制的に立ち退かせるのである。強制的に退去させられる中で移民はすべて(健康手帳、薬、診療に必要な行政上の書類など)を失うこととなり、この措置が健康状態より悪化させてしまう原因ともなっている。

この政策が実施された最近の事例は、2015 年 6 月 2 日に La Chapelle(パリ市)において「主要伝染病蔓延のリスクを避けるため」遂行された強制退去措置であるが、世界の医療団のチームは、単なるダニによる皮膚病の発生しか確認していない。強制退去をさせられた 400 人のうち、大多数の者が、当局による介入の直後または数日後に、また路上に放り出されているのである。



© Olivier Papegnies/collectif Huma、2015 年 6 月カレー市

ドイツ

2015年9月17日に発表されたドイツの新しい難民受入れ改正案では、住居、難民認定、社会的権利に関し、大幅な後退案が盛り込まれていた。

- EU圏内の他国で既に難民登録を済ませた移民に対しては、今後、治療、宿泊施設、社会福祉を提供しない（シェンゲン協定）
- シェンゲン協定に基づいた国境でのチェック、法的救済策を伴わない拘束又は国外追放
- ‘Duldung’（ドイツ語、国外退去であるが、人道的もしくは政治的な理由から滞在の一時的な猶予）の変更

9月18日、難民12万人がミュンヘンに到着したが、直ちにドイツ国内の他の都市に振り分けられたため、現在、ミュンヘンにいる難民の数の特定は難しい。世界の医療団が簡単な調査を行った結果、大多数の人々は衣服、食糧、衛生用品を所持している事が判明した。

一旦、難民申請者として登録されると、公費により医療、収容施設、食事の権利が即座に与えられる。多くの世界の医療団スタッフがこの公的医療サービス活動（移動クリニック）に、ボランティアとして参加した。しかし問題は登録を希望しない人々の存在である。例えば、移動中に家族や親戚とはぐれたため、申請後に他の都市に移動させられることを避け、ミュンヘンに留まり家族らと再会を願う人々、一方、スカンジナビアや北ドイツに行くことを希望する難民たちがいる。どの程度の人々がこのような状況にあるのかは分からないが、世界の医療団ドイツはこれらの「不法滞在」難民を主な支援対象グループとすることに決定をした。

世界の医療団ドイツはミュンヘンの中央バスターミナル（ハウプトバーンホフ）にて、アラビア語の通訳のもと、また、随時医師のサポートを得ながら難民対象の調査を実施した。そのうちの大多数が、ごく一般的な情報（バスの切符売り場の場所など）を求めている。今後4週間、これらのモバイルチームは少なくとも週2回、活動する。また、駅周辺のアラビア語が通じる店には多くのシリア人が携帯電話のクレジットを購入するために集まるので、ここでも無料診療所についての宣伝を行う。

医療のニーズに関して、大多数の難民は比較的健康であるが（共通する症状は皮膚のトラブル、発熱、下痢、軽度の耳鼻咽喉感染症）、全員に極度の疲労が見られた。中には慢性疾患を持ちながら移動中一度も受診出来なかった人や、出産を間近に控えた妊婦も数人いた。このほか、数人はブダペスト（ハンガリー）の警察ともみ合いになったり、または警察から逃れようとしたりして怪我を負っていた。

ミュンヘン周辺の難民受入れセンターは、飽和状態になりつつある。今年8月以降、バイエルン州では、のべ65,000人以上の難民を受け入れた。理論上、難民申請者が医者にかかることは可能であるが、多くの医療機関は煩雑なペーパーワークを理由に、難民の診療を拒否している。この件に関し世界の医療団は打開策を求められ、目下検討中である（例えば難民受入れセンターと協力し、難民受入れの優先順位を付ける等）。

最近ではハンブルグが、難民の通過地点になりつつある。現状、治療を必要とする人々の数は増えていないが、世界の医療団は医療ニーズの増大を見越し、準備を始めた。医療機関やスタッフのネットワークを更に強化し、無料診察などの情報配信も積極的に展開していく。

ギリシャ レスボス島

7～9月の8週間の間に毎日1,500～2,000人の難民が、薄汚れた粗末な小型船でトルコからレスボス島に到着した。たとえ上陸後しても、難民たちはテント村まで約50キロの道のりを歩かなければならない。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)がテント村へ難民を運ぶ輸送手段の手配に踏み切ったのはようやく9月初旬のことだった。しかし、この情報を得ることもままならず、多くの難民たちは唯ひたすら歩き続けるしかない。

ミティリーニ市中心から3キロ離れた「カラ・テペ」と呼ばれるキャンプに、新たな難民が続々と到着した。「戦争難民」と呼ばれるシリア国籍の人々である。他の国籍(イラク、アフガニスタン等)の難民は、市の中心から6キロ離れたモリアの有刺鉄線柵で封鎖されたキャンプに収容された。モリアキャンプでの難民登録は、4～5日とカラ・テペより長い日数を要する。登録を終えた難民は、次にボートで本土のアテネに向かう。通常の乗船料金は45ユーロだが、難民たちへの請求は60ユーロで、支払わなければならない。



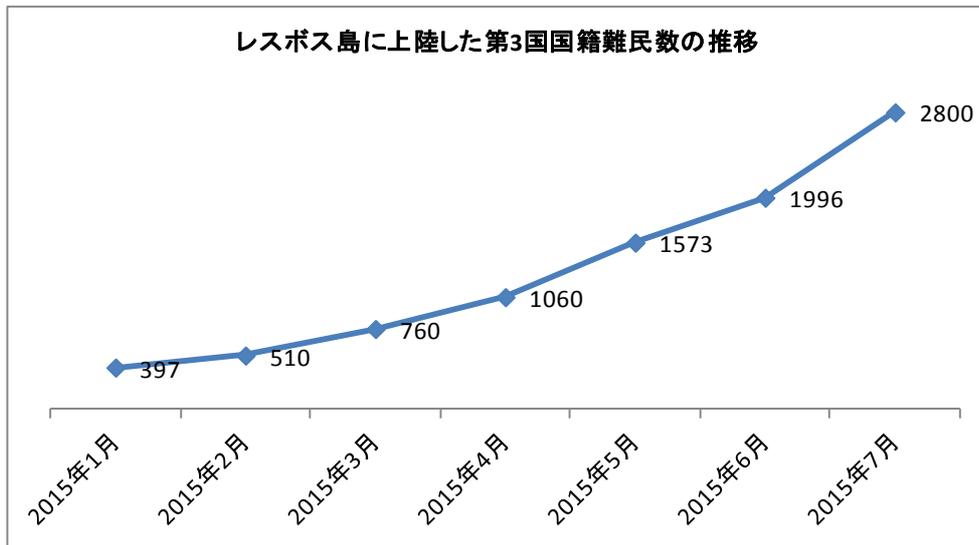
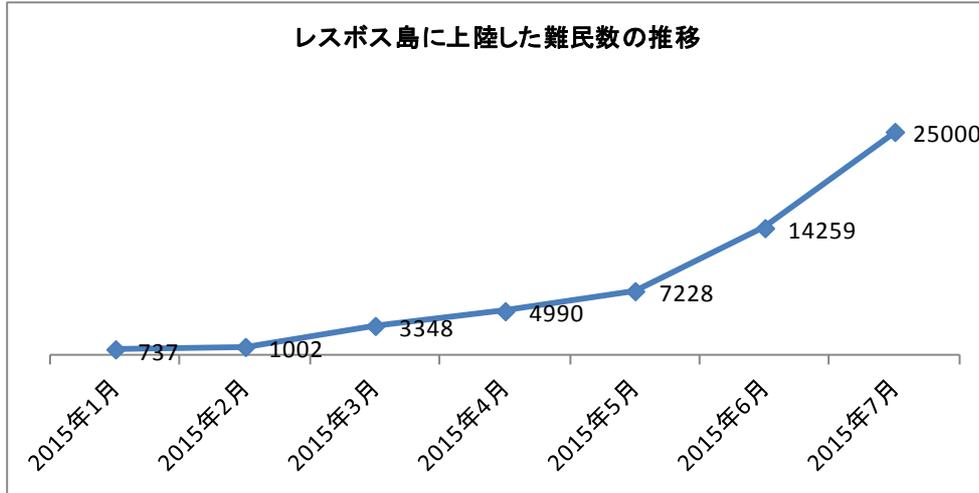
先週モリアのキャンプから(保護者のいない未成年者を残して)人影が消えた。選挙を前に、食糧が底をついたからだ。トイレもなく、正常とは程遠い環境である。水は手に入る。

YouTube 上にはカラ・テペの現状をよく表した動画がアップされている。<https://youtu.be/dulrZF1IAu4>

世界の医療団ギリシャは、カラ・テペとモリアの両キャンプで医療支援を実施しており(弱い立場の人々かどうか、また精神的な治療の必要の有無の特定を含む)、いずれのキャンプでも1日60～150件の診察を行っている。また、ミティリーニ港に移動クリニックを設置、プライマリヘルスケアの提供を行っている。キャンプでは生活物資が不足していることから、世界の医療団チームも食糧支援の要請を受けることが頻繁にある。



Photo by Johan Dewitte、世界の医療団ベルギー、レスボス島にて



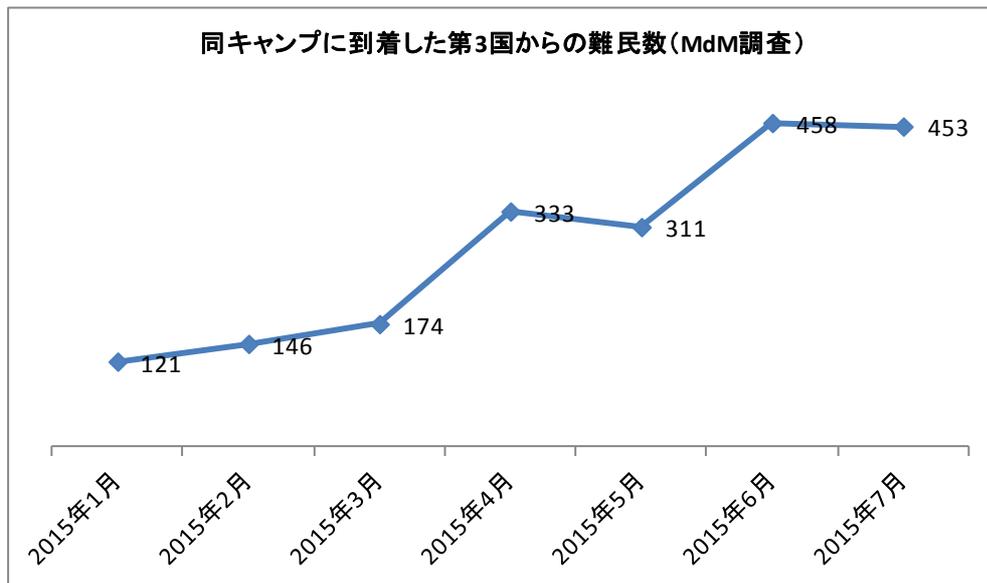
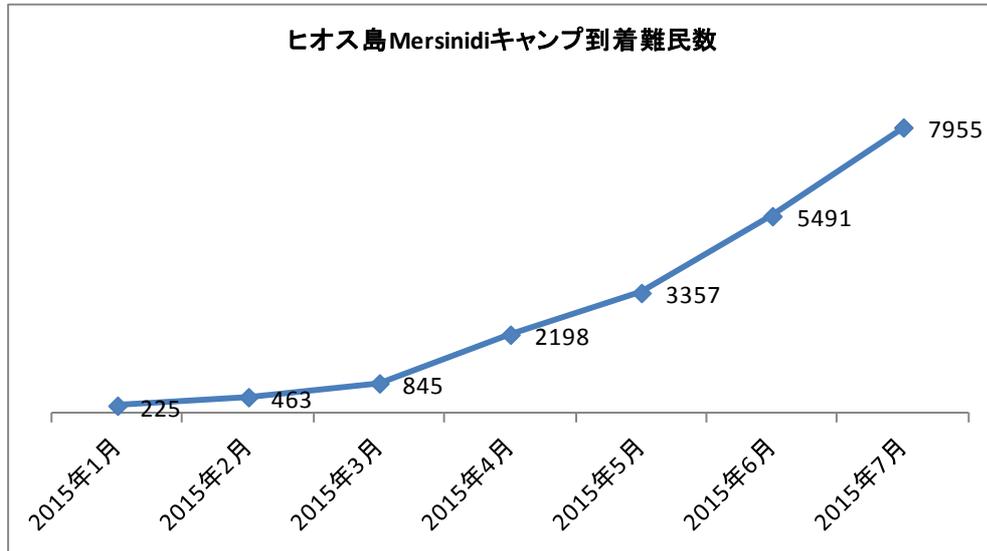
(世界の医療団医療チームによる調査結果)





ギリシャ ヒオス島

世界の医療団 EL チームは Mersinidi の検査施設で総合診療の提供とともに、衣服や履物等の生活物資の支給を行っている。



ギリシャ ティロス島

この小さな島の島民に対して、世界の医療団は総合診療を中心とした医療支援を行っている。2015年8月以降、少なくとも1,022人の難民が小型船で到着、世界の医療団はこれらの人々にも医療支援を提供している。

ギリシャとマケドニア旧ユーゴスラビア共和国(FYROM)間の国境地帯

マケドニア旧ユーゴスラビア共和国(Former Yugoslav Republic of Macedonia, FYROM)との国境に近いギリシャ北部(「マケドニア」の別名で呼ばれるギリシャ領域)の小さな村イドメニに約4,000人の難民、その多くがシリア国籍、が足止めされた。FYROM政府はゲブゲリア町南側の国境を「危険地域」と指定し国境を封鎖、軍隊を投入したのが原因である。数日間はギリシャとFYROM警察当局との間で合意が成立し、国境が開かれたため、イドメニ村の難民の状況が改善に向かい、毎日50~60人が国境を通過することができた。難民は国境付

近にバスで到着、そこでは多くの現地の支援組織やボランティア団体が食料、水、衣料品を配って支援している。FYROM 国内の状況も改善の兆しが見えており、難民は到着後バスでゲブゲリ駅(ギリシャと国境を接する FYROM の国境の要所)に移送され、ここからセルビアに向けて列車の旅が始まる。

2015 年 8 月 23 日、世界の医療団はイドメニ村で活動を開始した。開始当時、最初に村を訪れたのは医療と事務からなるチームである。この訪問はテッサロニキにある総合病院から呼びかけによるもので、シリア人を含む難民に対して、人道支援はもちろんのこと医療及び調剤サービスを行うことを目的としていた。チームは、毎日村を訪れて医療や調剤サービスを行うと同時に、救急セットや衛生用品を配給している。9 月 8 日以降の診療件数は、約 1,600 件に及んだ。世界の医療団ギリシャ と世界の医療団スイス による FYROM の視察調査が実施される予定となっている。



イドメニ村での活動

ハンガリー

現地 NGO「メネデク・ハンガリー移民協会」によれば、セルビアとハンガリー間の国境が封鎖されてから、難民の大集団は全て排除されたとのことである。全員がオーストリアに移送されたとのことだが、**しかし**、今もなお、ブダペスト市内のシェルター、倉庫、広場などに潜んで生活している家族やグループがいるとの報告もある。数千人単位の難民の流入が報告されることはなくなったが、今でも数百人の難民が引き続きクロアチアからハンガリーに流入してきている。

メネデクは、様々な職種の専門家とともに国境を越えて活動する NPO 組織である。主にソーシャル・カウンセリング(社会生活に関する基本情報の提供)、社会的弱者の特定、必要な支援提供者の照会(例:児童保護、法的支援等)を行っている。治療は公立病院の救急サービスでのみ受ける事が可能であり、他の方法はない。国境以外にも、メネデクはブダペストでもモバイル・ソーシャル・チームを立ち上げ、社会的支援から疎外された最も弱い立場の人々に援助の手を差し伸べている。

現在、セルビアとクロアチアの国境地帯に大きな問題が生じている。クロアチア側では物事は比較的容易であるが、セルビア当局の対応は非常に厳しい。現在、クロアチアーハンガリー国境近くで難民に接触出来る独立 NGO は存在しないが、赤十字社とインターチャーチ・エイド(政府系の諸宗派援助組織)が支援活動を行っている。他方、クロアチアとハンガリーの警察当局は連携がよく、難民たちは比較的スムーズに国境を通過出来てい

る。一旦オーストリアに入国すれば、ドイツ国境に近いオーストリア側中継キャンプにて、支援サービスを受けることが出来る。

クロアチア側で特に問題なのはドナウ川南の地域である。トバルニクやセルビア国境を通過した直後の中継キャンプである Beli Manastir (YouTube 動画参照、数百人の難民が映っている)、更にハンガリー国境からさほど遠くない Comitat Osijek-Baranja に滞在する数千人の難民の問題である。

最近の政治的風潮は、NGO に対してますます厳しさを増している。例えば、収容施設内の難民へのアクセス制限や「国家の統一を乱す行為」といった内容の政府系新聞記事による NGO 批判、等々。

世界の医療団ベルギーと世界の医療団イギリスは 9 月末にハンガリーでの協働の調査ミッションを行う。クロアチアのトバルニク、セルビアのシドや周辺地域に調査に入る予定となっている。

アイルランド

アイルランド移民権利センター(Migrant Rights Center Ireland, MRCI)は、難民受入れ問題に関して最前線に立っているわけではないが、地中海沿岸での難民危機について、MRCI 率いる NGO 連合が 2015 年 9 月 4 日にプレスリリースを発表した結果、アイルランド政府は国の受入れ定数を含む 4,000 人を受け入れる決定を下し、正式な身分を持たない人々の移住を認めた。

別の NGO 連合が 2015 年 9 月 9 日付の声明を通じ、国際的な保護を求める難民向けにアイルランド難民保護プログラムの成立を要請し、アイルランド政府のコミットを促した。

ノルウェイ

オスロに到着した難民 1,200 人に対して、現地の赤十字社が医療サービスを提供。警察署内の登録センターで検査を行った後、「事前検査クリニック」に患者を照会することができる。不法滞在者のためのヘルスセンターでは、赤十字社と協力し、赤十字社に代わって 20 人のボランティアが医療活動をサポートしている。

セルビア

現在の危機的状況に至るかなり以前からセルビアは移民の中継地点と見做されており、世界の医療団フランスは 2 年計画で移民のための医療センターを開設した。医療や福祉サービスの欠如、高まる外国人排斥の気運、クロアチア、ハンガリー、マケドニア 3 国の国境地帯の難民キャンプ内の劣悪な住環境などが主な課題ということが早くから判明している。

スペイン

通常より多くの人々がセウタやメリリヤ(モロッコ側のスペイン飛地領)に入ろうと試みているが、モロッコ政府によって阻止され警察当局による激しい暴力行為に晒されていると世界の医療団スペインは伝えているが、詳細はまだ未確認である。

スロベニア

9 月 17 日から 9 月 21 日までの間に約 3,000 人がクロアチアとスロベニアの国境を通過し、全員がバスでオーストリアへ向かった。21 日以降、国境を通過する人の数は減少している。クロアチアとスロベニアの間に一種の無人ゾーンが出現、公的機関の専門スタッフが難民に医療サービスを提供することは許されておらず、代わりに医療ボランティアが送られた。

スロベニア慈善事業(SP)が難民支援ボランティアの窓口になっており、SP は NGO 連合のメンバーでもあるため、定期的に政府の職員にも会っている。

赤十字、カリタス、その他の組織が国境付近で、救急医療サービスを中心に活動している。NGO は、妊婦や身体障がいを持つより弱い立場の人々のケアを重点的に行なっている。しかしそれでも、専門知識を持った医療スタッフへのニーズは日増しに高まっている。

難民に対する政治的風潮はむしろ否定的と言わざるを得ない。9月25日、スロベニアとクロアチア間の国境封鎖を求めるデモが、ネオナチ・グループの主導で予定されている。これに対抗する形で、国境開放を要求する支援グループが1時間早い時間にデモが行おうとしている。このようなネットワークからスロベニア政府に対するアドボカシー活動への支援を受けられることを期待している。

スウェーデン

9月11日以降に新たに到着するであろう難民の数に関しては信頼できる情報がない。公式には過去7日間に難民申請した人は7,147人とされているが、世界の医療団がストックホルム中央駅で観察する限り、約半数がスウェーデンで申請するかどうか決めていないか、時間が無くて未だ申請を終えていないかのどちらかであった。そして、スウェーデンに到着する難民のうち、全員がストックホルムを通過するとも限らない。

世界の医療団は難民を支援したいと志願する多くの人々に情報を提供するため、医療の権利に関する実用的な知識(スウェーデン語、支援活動志願者向け)や、不法滞在民向けに世界の医療団の活動を紹介する2頁のパンフレットを作成することにした。看護師協会が印刷し、ストックホルムでの活動の最初の24時間で1,000部以上を配布した。SNSでも情報を共有した。また、赤十字を始めとした有力団体へ共有された。

次いで、SNSを駆使し、ストックホルム周辺で活動する様々なボランティアの連携を試みた。ボランティアは市内全域で、医療ニーズに応えるために待機スタッフとしての役割を果たした(最初の5日間は24時間待機、以後昼間待機と夜間待機)。

世界の医療団には通常の1年分よりも多い数のボランティアが活動参加を求めて集まってきている。世界の医療団は、最大規模の緊急時シェルターの訪問を開始し、情報提供、医療相談などを行っている。活動開始から3日目、世界の医療団はストックホルム中心のモスク(当時最大のシェルター)に活動の拠点を移し、日に3~4時間のペースで医療相談クリニックを開設した。活動開始6日目、他の支援組織の動きが活発になり、社会的反響も上向きになったため、世界の医療団は情報提供と収集、活動の調整に焦点を置くこととした。

活動開始から11日、現在、チームの動きは更に機動的になり、独自のクリニックを持たない小規模シェルターの間を行き来しながら活動している。活動の中心は照会と情報提供で、毎日18時~21時に実施している。50件以上の相談を受ける日もある。難民が最も必要としているのは衣服類で、これは最初の到着地点マルメで配給されている。シェルターの運営も、次第に改善されつつある。

エリオット・ワイスランダー(世界の医療団スウェーデン)のコメント

難民が要望するのは主に情報である。「難民申請はここですべきか否か? 医師に診て貰うべきか否か? 医療には大金が必要? 医者は何処に?」といった質問が多い。もちろん、「どうすれば難民認定を受けられるのか?」という質問も多い。スウェーデン市民が「シリア人」支援を呼びかける一方で、他の難民たちは置き去りにされる傾向にある。特にアフリカ系移民と思われる人々がそうである。メディアはシリア難民だけを集中的に報道している。

我々の従来の主要な支援対象であるEU圏内の貧困層や途上国の人々についても、以前にも増して取り残される傾向にある。お腹を空かせたロマの女性が、中央駅のテーブルに大量に並べられた食事(実際多すぎて捨てる程)を少し恵んで欲しいと手を出したものの、ボランティアによってまるでネズミやハトの様に追い払われる光景を目にした。同様のことは衣料品の集積場でも見られた。そこでは大部分が雨に濡れて廃棄処分される衣類であるにも関わらず、EU圏内からの移民は1枚も手に入れることが許されなかった。EU圏内の移民が支援を得ることを制限するような内容の告示さえも目にする可能性がある。彼らは社会の寛容さが大きく変化したことを身に沁みて感じ、得るお金もずっと少なくなっている。国に帰る切符を手に入れるか、飢え死にするか、手に入れたものの次第によっては、やがて深刻な事態を引き起こしかねない。

最近、平等と児童保護担当の閣僚であり、社会的弱者である東欧移民問題の責任者でもある政府要人が有力紙2紙と会議の席上において、非常に挑戦的な2つの声明を出した。「東欧系移民にお金を渡すべきではない。渡さなければ、ここに来ることを思いとどまるだろうし、渡す側も何の助けにもならないことを理解できる」、そしてもうひとつの声明は「一時滞在の移民の子どもたちに、学校教育の機会を与えるべきでない」というものである。



スウェーデン政府は、シェンゲン協定を支持することを改めて表明した。つまり、他の EU 加盟国で難民申請を行った者は全て送還されることになる。しかし、世界の医療団スウェーデンは、多くの難民たちが不法滞在民として滞在し続けるだろうと予想している。